

学校だより

4月号

一中の桜並木

令和6年4月10日

「教育目標」

考える人 思いやりのある人
助け合う人 成しとげる人



連雀学園三鷹市立第一中学校

校長 宮城 洋之



令和6年度 第78回入学式 「式辞」

校長 宮城 洋之

東八道路をはさんでちょうど一中と反対側にJAXAの航空宇宙センターがあります。このJAXAが開発H3ロケットは日本にとって20数年ぶりの新型国産ロケットで、我が国の今後の宇宙開発を支える重要な存在です。

しかし一年前、H3ロケットのデビューとなるはずだった2023年3月の打ち上げは失敗に終わりました。ロケットは地上を離れたものの、2つめのエンジンに着火できず、地上からの指令によって空中で破壊されてしまったのです。

このH3開発チームのリーダーに岡田匡史さんという方がいます。数百人の技術者チームを束ねる岡田さんは、35年にわたってロケットエンジンの開発などに携わってきた方で、失敗を何度も経験しながら日本のロケット開発を長く支えてきた人物です。

岡田さんによると、打ち上げ失敗の直後から原因究明を始めたそうですが、出口がなかなか見えないまま、暗闇の中で時間だけがどんどん流れてゆく感覚だったそうです。旧型のH2ロケット以来、日本のロケットは大きな失敗を経験してこなかったため、開発メンバーの大半は失敗経験がなく、ショックが大きかったと言います。

岡田さん自身は中学生の時にテレビで見たロケットの映像がきっかけで航空学を目指したそうですが、大学では周りの優秀さについていけずに挫折したり、熱中したハングライダーの落下事故で長期入院して留年してしまったりするなど失敗続きでした。ただ、「このままじゃダメだ」と一念発起し、一から勉強し直してロケット研究の道に進みました。

「自分も弱い人になったことがある分、失敗した人の気持ちがわかる」そう語る岡田さんは、JAXAの「ロケットエンジニア心得」にある「ロケットの未来を考えよう」という言葉を繰り返してメンバーを励まし、原因究明と対策の陣頭指揮をとりました。失敗の原因は特定できませんでしたが、原因となる可能性を絞り込み、そのすべてに対策を講じてH3ロケット2号機の準備を進めました。

そして、今年、2024年2月、種子島の宇宙センターから打ち上げられたH3ロケット2号機は予定された軌道に到達後、搭載した人工衛星を正常に分離し、ついに打ち上げは成功したのです。

その日、記者会見に臨んだ岡田さんは、失敗からの1年間を振り返ってこう語りました。「エンジニアは失敗すると、ものすごく強くなる」。

☆ ☆ ☆

新入生の皆さん、これからの中学校生活には様々な出会いやチャンスが待っています。その一つ一つがうまくいくこともあればうまくいかないことだってあるのは当然です。

アインシュタインの言葉に「失敗したことの無い人間というのは、挑戦をしたことの無い人間である」というものがあります。新しいことに挑戦しなければ、間違えることも失敗することも経験せずに済みます。でも、「失敗しない」ことを第一に過ごしているだけでは、進歩も新しい発見もありません。

H3に見たように、失敗することだって皆さんが子供から大人へと成長するきっかけにできるのです。今日から一中生となった皆さんには、ぜひ、失敗を恐れず、目の前のチャンスに挑んでほしいと思います。一中は皆さんのチャレンジも、皆さんの失敗も全力で支えます。入学おめでとう。